

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第36号 2019年6月1日

5月1日に改元され「平成」から「令和」へと変わりました。メディアには「令和初の…」というフレーズがあふれています。元号は東アジアの漢字文化圏に特有の制度でしたが、現在では世界で日本だけのようです。年数の計算が一段と煩雑になることもあり、多くの企業で改元を契機に文書等の表記を「元号（和暦）」から「西暦」へ切り替えたそうです。

それでは、令和初の「♪ジョイコン NEWS ♪」（第36号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆第40回コンサート
- 【2】 今後の予定（先取り情報）
 - ◆第41回コンサート
 - ◆第42回コンサート
- 【3】 国際ピアノコンクールとは？
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■■第40回コンサート■■

- ◇2019年7月21日（日曜日）
14:00 開演（13:30 受付開始）
- ◇出演：務川慧悟（ピアノ）
- ◇プログラム（予定）
 - ◆シューマン：子供の情景 Op. 15
 - ◆ブラームス：4つの小品 Op. 119
 - ◆ラヴェル：マ・メール・ロア（務川慧悟編曲）
 - ◆フォーレ：ノクターン第9番 口短調 Op. 97
 - ◆ドビュッシー：前奏曲集「第2集」より
- ◇料金：大人・高校生 2,000円、中学生以下 1,000円
- ◇会場：大倉山記念館ホール

第40回ジョイフルコンサートは『務川慧悟 ピアノ リサイタル～大人の世界、子供の世界』と題して、お届けします。

メッセージが届いています

子供というのは素晴らしいものだ。彼らにとっては見るもの触れるもの全てが真新しい、だから、多くのことに慣れきってしまった私達にとっては何気ない小さな喜びに見える事に対しても、子供達は当たり前のように、大きなときめきを抱くことができる。

偉大な作曲家の多くは、その晩年に到達してもなお、変わらぬ子供心を持ち続けていたように思う。彼らはその長い人生を経て悟った諦念と苦渋のうちで稀に煌めく小さなときめきの中に、無限の美を見出すことができた。それを私達は円熟と呼ぶ事もできようが、幼さと呼ぶ事だってできるのではなからうか。

今回のリサイタルでは、シューマンとラヴェルによる子供への優しい眼差しに溢れた、「大人の世界から見た子供の世界」を描いた2作品と、ブラームス、フォーレ、ドビュッシーによる晩年作品3作品を通して、子供と大人の世界、ひょっとしたら

共通しているのかもしれない2つの世界、をお届けします。(務川慧悟)

今回のジョイフルコンサートは務川慧悟さんのピアノソロリサイタルです。
どこかで耳にした事のある曲が多いのではないのでしょうか？どの曲も素敵な曲ばかりのプログラムでとても楽しみです。

☆シューマン/子供の情景

「子供の情景」は1838年クララ・ヴィークとの結婚を思いながら、クララの父、フリードリヒ・ヴィークの猛反対にあっていった時期に作られた曲集です。

ヴィークは2人の結婚を狂っているかのように反対します。
それは自分の弟子でありながら2年程で去って行ったこと、クララの前にはヴィークの弟子であったエルネスティーネと恋愛関係にあったこと、すでに鬱病の症状があったこと、が理由と考えられるのですが、あまりにも執拗なので狂気を感じてしまいます。
でもそれも当然だと考える説もあるようです。クララをピアニストとして育ててきて、活躍が期待されていた娘の結婚相手としてシューマンは不釣り合いだと考えたのかもかもしれません。

ヴィークに理解してもらうのは不可能だと思ったシューマンはクララの許可をもらって、裁判をおこします。それが泥沼化していってしまいます。ヴィークは裁判所で怒り狂ってわめきちらし、判事からたしなめられたり、シューマンに対する誹謗中傷が余りにも度を越していたため、名誉棄損で禁固2週間の実刑を受けてしまいます。

最終的に裁判で結婚を許可する判決が出てシューマンとクララは結婚することができました。その間シューマンは辛い時期を過ごしたと思いますが、クララのためのピアノ曲を数多く作曲しているので、この苦境を糧に音楽的に成長することができたとも言えると考えられています。

「子供の情景」は特にクララの子供っぽいぐさに触発されて書いた曲だそうで、子供向けというよりは「大人が子供の頃を思い出す」ノスタルジックな意味合いを持つ曲集と言われています。

リストは美しいメロディーに「この曲のおかげで私は生涯最大の喜びを味わうことができた」と大絶賛し、娘達のためによく演奏していたそうです。

全13曲の中で恐らく一番有名なのは第7曲の「トロイメライ」だと思いますが、第13曲の「詩人は語る」をホロヴィッツが泣きながら弾く演奏動画が紹介されています。<https://www.nemo2sha.com/horowitz-cortot-schumann/>

心の琴線に触れるメロディーをどうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■予約申し込み

大変申し訳ありませんが、「満席」となってしまいました。

【2】今後の予定(先取り情報) ~ 「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■第41回コンサート■■

◇2019年9月15日(日曜日)

◇出演:戸澤采紀(ヴァイオリン)、鳥羽亜矢子(ピアノ)

◇プログラム(予定)

◆バッハ:無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番

◆イザイ:無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番

◆チャイコフスキー:ワルツ・スケルツォ Op.34

他

★予約受付開始:2019年7月22日(月曜日)午前9時より

■■第42回コンサート■■

◇ 2019年11月17日（日曜日）

◇ 出演：熊谷俊之（ギター）

【3】国際ピアノコンクールとは？

2017年に直木賞と本屋大賞のダブル受賞をし、今年の10月に映画が公開される恩田陸さんの『蜜蜂と遠雷』。この本の中で描かれる国際ピアノコンクールは、実際の「浜松国際ピアノコンクール」がモデルとなっています。

演奏を競うことは、古代ギリシャ時代からあったらしいのですが、バロック時代から19世紀半ばまでは、すでに演奏家として知名度のある2人が自作で演奏を競い合うのが一般的でした。

今日のように、プロの演奏家を目指そうとする人がベートーヴェン、ショパン、リストといった作品を競い合うコンクールは19世紀後半から始まります。

このスタイルの最初のコンクールはアントン・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール（ロシア）で1890年から5年ごとに開催されていましたが、第1次世界大戦後に開催できなくなりました。

次に国際コンクールが始まったのが1927年のショパン国際ピアノ・コンクール（ポーランド）で、今やプロのピアニストの登竜門的存在の1つです。

1937年にエリザベート王妃財団によって、ウジェーヌ・イザイ・コンクール（ベルギー）が設立されますが、第2次世界大戦によって一時中断、1952年にエリザベート王妃国際コンクールと名称を変えて、今日まで継続されています。

1939年にはジュネーヴ国際音楽コンクール、1943年にはロン＝ティボー国際コンクール（2011年よりロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールという名称）が開催されました。第2次世界大戦後はコンクールが増加しはじめ、1952年にはブゾーニ国際ピアノコンクール（イタリア）とミュンヘン国際音楽コンクール、

1958年にはチャイコフスキー国際コンクール（ロシア）、1962年にはヴァン・クライバーン国際コンクール（アメリカ）、その他次々にコンクールが設立され、プロの演奏家を目指す人達の目標になっていきました。

『浜松国際ピアノコンクール』は、1991年に浜松市制八十周年を記念して創設され「楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業」としてスタートしました。3年に1度開催され、2018年に10回目を迎えました。

1997年に中村紘子さんが審査委員長に就任してから、このコンクールの評価の躍進はめざましく、1998年に日本のコンクールとして初めて、国際音楽コンクール世界連盟への加盟が認められ、年々、応募者のレベルも上昇し、入賞者に対して聴衆や業界が注ぐ視線が熱いものになっていきました。（2016年より小川典子さんが審査委員長に就任されています）

国際ピアノコンクールには2つの傾向があるそうです。1つは、ピアニストに成熟度や完成度を求めるタイプで、こうしたコンクールの場合は、各ステージ、レパートリーは自由でボリュームが多く、ほとんどリサイタルのようにプログラムを組み立てる必要があるそうです。ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールはこの傾向が強いそうです。

もう1つは、その時点では粗削りなところがあっても将来性を重視するタイプで、参加可能年齢の下限が低く、レパートリーにも具体的な設定があります。また、入賞後にもあまり過酷なスケジュールのコンサート出演はさせないという方針です。浜松国際ピアノコンクールは、将来性を重視するタイプのコンクールの特徴を持ちつつ、入賞の半年後くらいから日本を中心としたコンサートを用意しているそうで、これは成長のための猶予を与えながら、ステージで演奏する機会も用意することを両立させた試みといえるようです。

浜松国際ピアノコンクールは、若い才能が評価、発掘されるコンクールという認識で広く定着するようになってきたように思います。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（５月１９日公演）

『荒木奏美 オーボエ リサイタル～バロックから現代、哀愁から諧謔 オーボエの魅力との新たな出会い』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」が６７％、「良かった」が２０％（残りは「無回答」１３％）で、今回もとても好評でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

オーボエリサイタルは初めての方も沢山いらっしゃったようで、『オーボエのソロは初めてですが、音色のいろいろなニュアンスが素敵でした』『様々な表現のできる楽器（激しさ、力強さ、せつなさ etc）だと感じました』『表現力の豊かさに心打たれ幸せな気持ちになりました』など率直な感想が寄せられました。

また、『選曲も工夫があり、とても素晴らしかったです。聴きなじみのある曲ばかりでなく、それが逆に色々なオーボエの魅力を引き出していました。素晴らしい演奏でした！』『どれも素敵でしたが、ドラティ無伴奏 大変おもしろくすばらしかったです』『素晴らしかった。特にカリヴオダのディヴェルティメントの超絶的演奏に感動しました』など、好意的メッセージが数多く寄せられました。

一方、『演奏開始前のご注意に、演奏中のチラシを見る（めくる）事をご遠慮頂くように言って下さると有難いです』『紙をガサガサ、ペンケースのファスナーをあけたりしめたりでうるさかった』との苦情も頂きました。気持ちよくコンサートを楽しんで頂けるよう主催者として対応して参りたいと思います。

アンケート回収数：６０（回収率７７％）

【編集後記】

まもなく関東地方も梅雨の季節になります。

雨が似合う花といえば、紫陽花（あじさい）が思い浮かびますが、花びらのように見えるのは実は萼（がく）で、花はその中の小さな点のような部分です。

花（萼）の色はアントシアニンという色素によるもので、根から吸収されるアルミニウムイオンとの結合度合いで変化するそうです。

雨の中の紫陽花には色の鮮やかさだけでなく一種の妖艶さも感じます。

近くの公園やお寺に出かけてみてはいかがでしょうか。（お）

※このメールマガジンは、

大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で

「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
